

研究部だより

NO.18

「生成A I の利活用」 編

◇はじめに

先日、海辺を散歩していたときに、ふと足下にある貝殻がどんな種類なのかと気になり、試しに生成A I で検索したところ貝の種類が即座にわかりました。

更に、おすすめの調理法もいっしょに示されるなど好奇心が刺激された反面、今後の教育現場での利活用が気になり少し考えてみました。



◇生成A I を使って思うこと1

ふとした疑問があっても辞典で調べるのは面倒でしたが、生成A I なら即答です。インターネットと違うのは会話形式という点で、生成A I と対話を進める内に次の疑問がわいて新たなことが知りたくなります。今では次の興味に繋がる「問い」を予測し生成A I が提示するなど、関プロ千葉大会で研究した「問い」の効果である「学びの連続性」であると感じています。

また、研究を始める際にも力を発揮すると思います。その分野に精通していなくても何となく概要をつかむことができ、イメージしやすくなります。また、研究を進める中で「キーワード」の関連を探る場合に便利です。更に、研究のまとめにおいて、内容を図でまとめてもらうと非常にわかりやすくなります。

◇生成A I を使って思うこと2

反面、学校現場で生徒に使わせるとなるとどうでしょうか。生成A I を使ってみると心配な点もいくつかあります。それは「子どもが考えなくなるか」「わかったつもりにならないか」という点です。他にも「安全面の心配」があります。

以前「夏休みの宿題となる読書感想文を代行サービスで書いてもらう」というものが話題となりましたが、生成A I は文章作成はもちろん「〇〇風に」という指定された条件でも作成できます。他にも画像や動画、音楽、プログラム等も作成できるようなので、著作権や生成A I の悪用など生徒が安全に適切に使用できるのかというモラルの点で気がかりです。

◇授業での生成A I の利活用にはどんな場面が考えられるか

文科省の「初等中等教育段階における生成A I の利活用に関するガイドライン」を読むと、具体的な利活用の場面では「生成A I 自体を学ぶ場面（生成A I

の仕組み、利便性、リスク、留意点)」「使い方を学ぶ場面(より良い回答お引き出すための生成AIとの対話スキル、ファクトチェックの方法等)」「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面(問題を発見し、課題を設定する場面、自分の考えを形成する場面、異なる考えを整理したり、比較したり、深めたりする場面等での利活用)」がありました。



技術分野で言えば、情報領域において機械学習を利用したプログラム作成等でAIの仕組みを扱えそうです。また、問題解決の場面では、生成AIとの対話から思考を深め広げることが期待できます。他にも、デジタルポートフォリオの記録から自分の成長点を見いだすこともできるかもしれません。

◇生成AIの利活用の際の留意点

同ガイドラインにおいて、利活用の際のポイントとして5点あげられています。①安全性を考慮した適正利用、②情報セキュリティの確保、③個人情報やプライバシー、著作権の保護、④公平性の確保、⑤透明性の確保、関係者への説明責任です。大切なことは生徒に自由に使わせるだけではなく、目的や意義、安全面や留意点をしっかりと教えることが必要です。

例えば、ルールやマナーの徹底、個人情報を入力させない、著作権への留意はもちろん、出力に偏りが無いか、内容の確認など生成AIの特徴を理解した上で利活用しているか教師が確認する必要があります。特に「AIは人の幸せのために使う」「AIを使うことは良いことばかりではない」「間違った答えもあり、最終的には自分で判断し、その活用には責任をもつ」という考え方が必要です。

◇終わりに

ある講演会の記録に「これからの子どもたちは生成AIと共に人生を歩んでいく」とありました。今後、生成AIや人型ロボットが普及してきたときに、どんな「生きる力」が必要なのでしょう。また、AIの授業での活用において、子どもの好奇心を刺激し、思考力を育てるための使用方法を考えていく必要があります。



引用：「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」

令和6年12月26日 Ver. 2.0 文部科学省

参考：講演「これからの子ども×生成AI」鈴木秀樹 概要記録

主催 君津市周西公民館・周西中学校区青少年健全育成連絡協議会

2025.11.15 会場 君津市周西公民館

画像：生成AI Google Gemini を利用して作成

文責 研究部(渡邊)